

学校開放週間、ご来校ありがとうございました。

「いのちかがやく強調月間の6月」、多くの保護者の皆様、地域の皆様にご来校いただき本当にありがとうございました。「いのちの講話」から始まり「道徳公開授業」、「楠栖小落語会」、6月28日の平和集会まで、子どもたちも命に関わるさまざまな体験や学習に取り組みました。学級懇談会の中でも、子どもたちのよりよい育ちに向けて、保護者の皆様と思いを共有することができました。

学校は、同じ年頃の子もたちが集団で生活をするところだからこそ、子ども同士のトラブルが起こるのは、ある意味当然のことです。そのトラブルを学びに変えて、社会性を身に付けて、お互いに成長できるよう指導していきたいと考えています。

あいさつができること、「ありがとう」や「ごめんなさい」が言える子どもは、人から愛される人になります。子どもたちひとり一人が「いのちかがやく」人生を歩むために大切なことだと思います。

楠っ子ひとり一人が幸せに生きていけるように、学校、地域、家庭と一緒に子育てをしていきましょう。これからも応援よろしくをお願いします。

○学校ホームページは、下記アドレスまたはQRコード
よりご覧ください。<http://www.city.sasebo.ed.jp/es-kusuzumi/>



【ホームページより～抜粋～】令和6年6月20日掲載分に追記



六月二十六日の
長崎新聞に掲載
されました。



今日は、佐世保市出身の三遊亭らっ好さんをお招きして、楠栖小落語会を開催しました。

5校時は、全校児童と保護者、地域の方が落語を楽しみました。「おーい 定吉、定吉」と話が始めた途端、子どもたちは、一斉に後ろを振り返り、「あの、本当に誰かいるわけじゃないよ。」とらっ好さんに突っ込みを入れられて、「味噌豆」の落語が始まりました。また、そばを食べている様子、手ぬぐいの使い方など、解説をしてもらい、代表の児童が実際にそばを食べる様子を演じてみました。とても上手にできました。そのあと、「つる」と「牛ほめ」が披露され、大いに笑って楽しいひと時を過ごしました。

6校時目は、5・6年生へキャリア教育として「職業講話」を実施していただきました。噺(はなし)家になるには、たくさんの修行があります。落語家さん800人いたら、800通りの着物のたたみ方がある。先輩方に気に入ってもらえるために、ひとり一人着物のたたみ方を覚えて、たたむそうです。すると、自分のことを気にかけて声をかけてくれる人が増えて、今につながっているとのことでした。落語を覚えるためにひたすら、ぶつぶつ唱えながら歩いていて、変な人と思われてしまうこともあるとか。「多くのお客さんに自分の落語で笑ってほしい。」という、らっ好さんの熱い思いにふれ、人に喜ばれるということは、やはり「やりがい、生きがい」につながるのだということを改めて実感しました。